

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 1 日現在

機関番号：11301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2009～2011

課題番号：21652006

研究課題名（和文） 「図説」と「書画」の分析・比較による近世思想史研究領域の拡大と深化

研究課題名（英文） Expansion and enhancement of a pre-modern history-of-ideas area by analysis and comparison of "illustration" and "paintings and calligraphic works"

研究代表者

片岡 龍 (KATAOKA Ryu)

東北大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：50400205

研究成果の概要（和文）：

本研究では、中国思想に淵源をもち、韓国の儒教において特徴的に見られる「図説」と、同様に中国文化に淵源をもち、日本では中世から近代初頭まで盛んに製作された「書画」を中心素材とし、図像と文献、中世の禅と近世の儒教、韓国思想と日本思想、都市と地方といった複数の分析枠組みを駆使して、14Cから19Cの儒学を中心とした日本の学術・文芸の特色を、東アジアの思想史・文化史の中に位置づけ、その性格を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

In this research, "illustration" characteristically seen in South Korean Confucianism and the "paintings and calligraphic works" briskly manufactured from Japanese medieval times to the beginning of modernization are used as main material, Making full use of two or more analysis frameworks, the special feature the Confucianism of 14C to 19C was positioned into cultural history of East Asia.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000円	0円	1,300,000円
2010年度	900,000円	0円	900,000円
2011年度	500,000円	150,000円	650,000円
年度			
年度			
総計	2,700,000円	150,000円	2,850,000円

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、思想史

キーワード：儒教、図説

1. 研究開始当初の背景

近年の日本思想史研究においては、従来の、仏教・儒教・神道・キリスト教といった思想

体系の枠組み内にとどまるだけの個別的研究や、あるいはそれらの頂点を結んで思想史の展開と見なす頂点思想史的研究、またその延長線を「近代」へと引っ張る近代化論的観点に対する反省が盛んになっている。

しかし、本研究が中心の対象とする日本近世思想史の領域でも、従来の個別研究・頂点思想史的研究・近代化論的観点と、近年の民衆思想史・読書の社会史・東アジア的視点などを包括でき、近世の人々の精神世界と、その構造的な転換のありさまを全的に映し出すことができるような視座は、見出されていない。

その理由としては、従来の文献を中心にした研究においては、文献の表面をなぞるだけで、そこに書かれてあることが、実際に近世の人びとの思考枠組みとしてどのように作用したかの踏み込んだ、かつ総合的検討が不十分であったことと、また近年の研究においても、結局は文献史料が主体となるために、そこに書かれてあることや書物の所蔵状況を、果たしてそのまま民衆の思想や読書水準とみなせるのか、また中国・韓国・ベトナムとの比較といっても、結局は知識人レベルの比較にすぎないといった問題などが考えられる。

いま近世思想研究において必要なのは、知識人・庶民を含んだ近世の基本的な思考枠組みの見定めと、東アジア諸国との比較によってその特質を確定する作業である。

2. 研究の目的

本研究期間内においては、第一に、中国思想に淵源をもち、韓国の儒教において特徴的に見られ、日本でも近世前期、また中期以降では特に民衆の思想において多く見られる「図説」を中心素材として分析し、その結果を東アジア、特に儒教が民衆の生活レベルにまで浸透したと言われる韓国のケースと比較する。

第二に、その結果を従来の文献を中心とした思想研究の成果とつきあわせることによって、近世の人びとの基本的思考枠組みを検出していく。

第三として、本研究はたんに近世の精神世界の静態的把握を目指すのではなく、それがどのようにして中世思想から、また近代思想へと構造的に転換するのかを動態的に展望できる視座を提出することで、思想が変化するとはどういうことなのかという、思想史と

いう方法自体の反省的考察を目指した。

3. 研究の方法

本研究の方法は、近世思想研究において、従来ほとんど注意されなかった図像資料に着目する点にある。

具体的に「図説」と呼ばれる資料に着目することにより、韓国儒教における「図説」との比較が可能になる「図説」への注目は、両国の儒教の比較の着実な足がかりに資する。

また「図説」は儒者だけでなく、民衆思想においても豊富な例が見られる。

これにより、従来の「上から」の体系的・頂点的思想研究と、「下から」の民衆思想史のスムーズなつきあわせが可能となる。

また「図説」は図だけでなく、解説文を付すものであることから、文献史料との接合も容易である。

図像学的研究は、往々にして文献中心の研究ほどの体系的思想把握にまでは到り得ないが、本研究ではそれが可能であり、将来期待される近世思想の図像学的アプローチの着実な第一歩となる方法を採用する。

4. 研究成果

本研究では、中国思想に淵源をもち、韓国の儒教において特徴的に見られる「図説」と、同様に中国文化に淵源をもち、日本では中世の五山文学の時代から近代初頭まで盛んに製作された「書画」を中心素材とし、また図像と文献、中世の禅と近世の儒教、韓国思想と日本思想、都市と地方といった複数の分析枠組みを駆使して、14Cから19Cの儒学を中心とした日本の学術・文芸の特色を、東アジアの思想史・文化史（特に儒教文化が民衆の生活レベルにまで浸透したと言われる韓国のケースと比較）の中に位置づけ、その性格を明らかにすることを試みた。

「図説」や「書画」の現物調査を可能な限り実施しながら、同時にそれを儒者などの文集に残された図の解説や「序・題跋・銘賛」などと突きあわせることによって、従来の文献中心の研究では捉えきれなかった前近代の学術・文芸界の性格の豊かな再現に向けての作業を行った。

より具体的には、「図説」「書画」と文献史料の関係についての分析・考察、それをふまえた近世日本思想史の新たな思想的見取り図と基本的思考枠組みの検出、また韓国思想

との比較を行った。

特に「図説」「書画」を、当時の東アジアの知的体系と動揺という静態的・動態的視座の中に位置づけるために、韓国において共同研究者らと討議を行なった。

また「図説」「書画」という図像資料と文献史料の複合的性格をもった資料に着目することにより、これまでの文献中心の研究では捉えきれなかった、知識人・庶民を含んだ近世の基本的な思考枠組みの見定めを行った。

その過程で浮かび上がってきた、韓国儒教が地方を拠点としているのに対して、日本儒教は都市を中心に展開しており、「図説」の製作の多寡は、このような日本・韓国の儒教の社会的存在形態の違いをその要因としていることを実証的に検証する作業に取り組んだ。

また日本思想・韓国思想関係の「図説」「書画」類の収集・実物調査を行い、「図説」「書画」の分析に必要な史料・参考文献の収集を行った。

そこから当時の学術・文芸を支える社会的基盤や、知的ネットワークのあり方を浮かび上がらせるべく総合的な分析を進めた。

また「図説」「書画」に関する日本・韓国・中国の研究文献を収集し、研究成果を整理し、その達成点と今後の課題を展望するための準備を行った。

都市と地方の社会・文化を中心とした周辺領域に関する研究文献を収集し、研究動向を探る作業とあわせて、本研究の課題に即した考察を行うための準備を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

- ① 片岡龍、伊藤仁斎之『孟子』論、『江戸時代日本漢学研究諸方面：思想文化篇』(台湾)、査読有、1巻、2009、145～168
- ② 片岡龍、14～19世紀の日本の学問の特色と、その変化、茶山学、査読有、14巻、2009、141～181
- ③ 片岡龍、旦暮遇之一荻生徂徠『学則』中の断層一、『人間と文化研究』(韓国)、査読有、18巻、2011、53～71

〔学会発表〕(計3件)

- ① 片岡龍、伊藤仁斎の学問観 ―〈公共〉への参与と鑑識―、第94回公共哲学京都フォーラム、2010年3月14日、京都リーガロイヤルホテル
- ② 片岡龍、「石田梅岩から考える「公共する」実践」、第97回公共哲学京都フォーラム、2010年7月25日、大阪リーガロイヤルホテル
- ③ 片岡龍、公共する人間としての二宮尊徳、第106回公共哲学京都フォーラム、2011年11月27日、神戸ポートピアホテル

〔図書〕(計2件)

- ① 片岡龍・金泰昌編、公共する人間1 伊藤仁斎、東京大学出版会、2011、1～12,18～26,42～54,79～96,118～126,151～198,215～264,287～289,293～317
- ② 片岡龍・金泰昌編、公共する人間2 石田梅岩、東京大学出版会、2011、1～8,21～28,53～60,78～92,112～118,133～138,157～162,179～206,215～235,254～255,261～297

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

片岡 龍 (KATAOKA Ryu)

東北大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：50400205

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：